ふくろう新聞

＜発　行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町
中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551

2回目の参加！淡路島祭り

→ジャスコ前まで踊りました。

さる8月4日（土）淡路島祭りに入所者51名が参加しました。

ふくろうの郷として2回目の参加で、デフあわじ連と連携して「デフ・淡路ふくろう連」という名前で踊りました。

楽しみにしておられた方も多く、汗を流しながら踊り、楽しいひとときをすごすことができました。

▲大矢施設長は初参加

▲職員も大盛り上がりです。

ある入所者の方は「これだけの人数で揃うと壮観ですね、きれいだ」と、ふくろうハッピを着て感動されていました。

ボランティアには中川原地域の方をはじめ、広島、香川、和歌山から駆けつけて協力していただき、洲本市社会福祉協議会からは車椅子を貸していただき、総勢約120名で大きな怪我もなく無事に帰ることができました。

▲皆さん笑顔で手を振っていました。

皆さん入所者との交流ができて、いい思い出ができたと思います。皆さんありがとうございました。

「来年も島祭りに参加したい」という入所者のみなさん、来年も「いのち」をいっぱい輝かせましょう。

介護：足立

―広告―

10月28日におこなわれる「ふくろうふれあい祭り」に出店してくださる模擬店を募集しています。
希望される方や興味のある方は連絡をお願いします。
■お問い合わせ
淡路ふくろうの郷　濱田・森岡まで。

入所者紹介

▲勝楽　進さん　　▲勝楽　佐代子さん

稲美町から来られました。進さんは自転車で外出されるなど元気な方です。
佐代子さんはとても器用で毎日作業に取り組んでおられます。

今月はご夫婦で入所されている勝楽さん夫婦を紹介します。

6月に、石川県聴覚障害者協会から勝楽進氏に講演の依頼があり、第45回石川県ろうあ者福祉大会に行かれました。

講演で勝楽氏はご自身の結婚から現在に至るまでの苦難の道のりを語られました。

「ろう者同士の結婚は容易ではなかった」

「仕事中に登っていた電信柱もろとも地面になげだされ足腰を強打し骨折。足を悪くし、採用してくれる会社が無くて廃品回収の仕事で生計を立てた時期もあった」

当時のろう者（障害者）に対する差別・偏見から、人間としての当たり前の生活を奪われたご自身の人生を赤裸々に語られました。

▲石川県の講演会での様子

勝楽氏にとって人形作りは生きがいでした。人形を我が子として大切にされました。つくり続けた人形は50体にも及びました。ふくろうの郷の見学者の中には、人形が欲しいという方がいらっしゃるそうです。聞くと、その方も同じように、子供を作れなかった方だったといいます。勝楽氏はその方に人形を差し上げ、「子供が嫁入りした」と言って喜ばれています。

講演を聴いて涙ぐむ方もおられました。障害を持っているというだけで、人間的な生活を送れなかった方はたくさんおられます。ふくろうの郷には、そういった方がたくさん入所されています。私たちはそこから学び、当たり前の生活を普通に送れるよう支援していきたいと思っています。

介護：角村

▲ふくろう工房でのご夫妻。

入所者紹介
～新しいなかま～

勇　喜佐夫さん

ボランティアの方と淡路島まつりにて。

7月2日に新しく入所されました。

となりのユニットに昔からのお知り合いの方が先に入所されていて交流を楽しまれています。

この8月4日の淡路島祭りに参加され皆さんと一緒に踊りました。

地元からのおくりもの

▲厚浜郷土芸能保存会の皆様と一緒におどりました。

七月七日に七月の誕生日会と収穫祭が行なわれました。

今回の誕生日会は中川原町厚浜郷土芸能保存会の皆さんが地元の踊りを披露してくださいました。

同じ地域から入所されている方は、踊りを観て誰よりも喜んでおられました。一緒に踊りだす入所者もいらっしゃいました。

空の下でバーベキュー

▲畑で収穫された野菜をてんぷらにしました。

誕生日会が終わると夕方からは収穫祭です。

昨年は雨の中で行われた収穫祭でしたが今年は問題なく外で行なうことができました。

今回は午前中にふくろうの畑で収穫された野菜を使っての天ぷらを用意しました。

あげたての天ぷらには長蛇の列ができ、あがるとすぐにトレイは空っぽになっていました。

もちろん主役のバーベキューも大盛況。肉に魚に野菜にと、次々たいらげ、最後は「そば飯」で締めました。

デザートには「地域交流会」のみなさんが用意してくださったスイカをみんなで食べました。

ご協力くださった皆様、ありがとうございました。これからも皆さんと集まって行える楽しい行事を増やしていきたいです。

▲お肉とスイカに笑顔がこぼれます。

☆
廣瀬　輝夫さん(83歳)
大正13年8月3日

☆
谷村　正雄さん(81歳)
大正15年8月16日

☆
大鋸　實さん(88歳)
大正8年8月25日

☆
松田　昌巳さん(78歳)
昭和4年7月18日

☆
勝楽　佐代子さん(78歳)
昭和4年7月26日

☆
西田　梅子さん(73歳)
昭和9年7月5日

☆
武田　和代さん(66歳)
昭和16年7月16日

職員からひとこと

▲島祭りで入所者の谷村さんと。

介護:田中　愛里

私は高校を卒業してすぐに淡路ふくろうの郷へ就職しました。

高校で1年間手話を勉強しましたが実際に会話をするのは難しく、ほとんど入所されている方に教えていただきました。

1年4ヶ月間積み重ねてやっと入所されている方の言うことが分かるようになってきました。

介護は経験を持つ先輩に教えていただき、経験しながら覚えています。

新しく入居される方が来る度、みんなで介助の方法を考え工夫しています。

介護は勉強が絶えない仕事だと思っています。先輩達や入居されている皆さんに支えていただきながらこれからもみんなと一緒に勉強していきたいです。

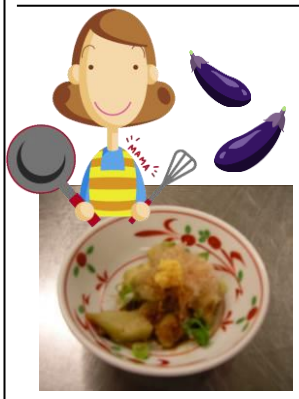
簡単一品料理（調理）

今回の一品は、

「焼きなす」

① ナスの皮を剥く
② 適当なおおきさに切る
③ オーブン230度で焼く
④ ポン酢をかけて召し上がれ

（トッピングでネギやしょうがを添えます）



ありがとうございました

この度、故大西康子さんのご遺族より30万円のご寄付をいただきました。

大西康子さんは兵庫手話通訳問題研究会の会員として活躍され、闘病のかたわら、淡路ふくろうの郷の建設運動にも大きく貢献されましたが今年4月12日に永眠されました。

ご遺族の英明様による「康子様のお礼」から抜粋

…肉体を離れ自由となった私は「千の風」のようにどこへも行けます。いつでもあなたと会い話すこともできます。あなたがそっと目を閉じ、私のことを思って下さればいいのです。

…素晴らしいみなさまに出逢え、一日一日が充実していました。改めてお礼申し上げます。そしてあなたの人生も幸せであるようにお祈りします。

大西康子

第2回 ふくろう・ふれ愛まつり

2007年10月28日(日)

11:00～14:30

みなさまのお越しをお待ちしています